

第6回理事会（臨時） 議事概要

- 開催日時 令和元年9月10日（火） 15時00分～17時00分
- 開催場所 Japan Sport Olympic Square14階 岸清一メモリアルルーム（東京都・新宿区）
- 出席者 理事総数 28名
出席理事 21名（代表理事を含む）

会長	山下泰裕	副会長	橋本聖子
副会長	松丸喜一郎	専務理事	福井 烈
常務理事	尾 縣 貢	常務理事	靱井圭子
常務理事	細 倉 浩 司	理 事	伊 東 秀 仁
理 事	上 野 広 治	理 事	大 河 正 明
理 事	大 塚 眞 一 郎	理 事	小 谷 実 可 子
理 事	澤 野 大 地	理 事	高 橋 尚 子
理 事	野 端 啓 夫	理 事	古 谷 利 彦
理 事	星 野 一 朗	理 事	南 和 文
理 事	室 伏 広 治	理 事	山 口 香
理 事	山 崎 浩 子		

監事総数 3名
出席監事 有竹隆佐、飯坂紳治、塗師純子

4 議事の経過の要領及びその結果

(1) 第1号議案 評議員選定委員の選任について

本会評議員選定委員会は、定款第11条第2項に基づき、評議員1名、監事1名、事務局員1名、外部委員2名の計5名で構成されているが、去る6月27日に開催された定時評議員会を以って、奈藏稔久氏が監事を退任したため、後任に飯坂紳治監事が推薦された。

【決議内容】飯坂紳治監事の評議員選定委員就任を承認。

(2) 第2号議案 組織機構について

第5回理事会にて承認された各専門委員会、選手強化本部専門部会、総務本部専門部会の委員及び部会員に加え、総務本部常任委員1名、アスリート委員の指名委員1名の追加、広報専門部会員7名の追加と1名の変更について提案された。

【決議内容】総務本部常任委員1名、アスリート委員会指名委員1名の追加、広報専門部会員7名の追加と1名の変更を全員異議なく承認。

(3) 第3号議案 理事会の運営について

第5回理事会において理事会の非公開が承認されたことに伴い、今後透明性を確保し、情報発信を行っていくために、以下の5点が提案された。

- ・理事会終了後に毎回ブリーフィングを実施
- ・配布資料は原則として開示
- ・審議の概要は、個人の意見や発言を特定されない形でブリーフィングにおいて説明
- ・決議内容は、原則として開示
- ・議事概要は、審議の内容を簡潔に記載し、個人の意見や発言を特定されない形で作成し、ホームページに掲載

【決議内容】上記5点を全員異議なく承認。

【主な意見等】

- ・第5回理事会にて理事会の非公開化の決議を取った際に反対した4名の理事の氏名が報道されたがあえて公開したのか、また今後も反対意見を述べた場合等は氏名が公表されるのかとの質問に対し、理事会後のブリーフィングでは、反対した人数及び反対理由は伝えたが、氏名は公表していないとの説明があった。関連して、そもそも反対者数を公表する必要がないのではないかといった意見が出され、議論のプロセスを伝えるためにも反対者数を伝えることも必要との意見があり、説明上必要があれば公表はブリーフィング対応者に一任することとなった。
- ・理事会での議論内容について記者が個別に質問しに来るが、今後は事後ブリーフィングのみの対応とし、個別の意見も述べない方が良くのかとの質問に対し、理事会としての決議等についてはブリーフィングにて責任を持って対応するが、決議された事項を前提に、その内容については他の理事の発言には言及せず、個人としての考えを述べることは問題ないとの説明があった。また、自身の意見は会議の場で伝えていきたいと思っているので審議の時点では反対意見を述べることもあるが、理事会で決議されたことは応援していこうと考えている、そのような会議の場である理事会が望ましいのではとの意見があった。
- ・理事会での決議事項について、必ず理事会後のブリーフィングで公表する必要があるのか、内容に応じて、良きタイミングで記者会見等を設けて発表する等のことも検討しても良いのではとの意見があり、今後そのような議題が挙げられた際に理事会で検討することとなった。

(4) 第4号議案 アスリート委員会関係について

第5回理事会において承認されたIOCアスリート委員会委員選挙の対応として、ワーキンググループを設置し、検討を進めてきた。8月19日に開催したJOCアスリート委員会にて、ワーキンググループでの検討内容について議論し、会議出席者全員一致で、日本フェンシング協会太田雄貴会長を推薦することの同意が得られ、その後本人の意思も確認し、前向きな回答を得られたことより、IOCへ推薦することとしたい。

【決議内容】

太田雄貴氏をIOCアスリート委員会委員選挙の立候補者としてIOCへ推薦する。

【主な意見等】

- ・太田氏を推薦するに至った経緯を知りたいとの意見に対し、JOCアスリート委員会として希望者を募ったが立候補者がいなかったため、候補者リストを基に会議で議論し、アスリートとしての実績、JOCの諸活動への協力、NFでの活動、IOCとコミュニケーションが図れる人材であるかを鑑み、推薦するに至ったとの回答があった。
- ・今回の提案内容については既にメディアで報道されており、情報管理、会議の進め方について改めて議論するべきなのではないかとの意見があった。これに対し、理事会で未審議の事項が決定されたことのように報道されることは問題であり、決定機関ではない常務理事会後のブリーフィングは、9月2日の常務理事会より行わなくなったこと、情報管理の在り方については引き続き検討していくとの回答があった。
- ・太田氏の推薦に異論はないが、準備期間が短かすぎた点は否めない、次のアスリート委員選挙に向けては、中長期的な戦略を立て、早く動きだせるように検討していただきたいとの意見に対し、今後のアスリート委員選挙に向けては、早めに対策を取っていくことにしたいとの回答があった。

(5) 第5号議案 マーケティング委員会関係について

1) 2021年以降のJOCマーケティング（専任代理店の選考）

マーケティング委員会のもとに、2021年以降のマーケティング検討プロジェクトを設置し、1年かけて基本方針案を策定した。4月23日に常務理事会でその基本方針案について審議し、承認を得た後、大手広告代理店に説明会を実施し、3社より提案書を受領した。9月6日に、専務理事、マーケティング委員6名及び新マーケティング検討プロジェクトメンバー4名の計11名で、各社のプレゼンテーションを受け、評価し、専任代理店候補企業

を選考した。今後候補企業の決定については、細かい確認事項等もあることより、マーケティング委員会の評価を基に、会長、副会長、専務理事、常務理事に一任することとしたい。
【決議内容】専任代理店の決定については、会長、副会長、専務理事、常務理事に一任する。

2) 第32回オリンピック競技大会(2020/東京)適用ルール40

東京2020オリンピック競技大会参加者の肖像使用に適用されるオリンピック憲章規則40付属細則3項について、6月26日付でオリンピック憲章の一部が改訂され、大会参加者の肖像使用に関する規定が変更となった。これに伴い、従来とは異なる新たなガイドライン(以下「ルール40」)が各NOCへ通知された。

IOCへの新たなルール40の不明点の確認と並行して、JOCアスリート委員会、東京2020組織委員会に意見を求めた。これらの意見を受け、マーケティング委員会にて日本国内におけるルール40の対応について、再度検討し、次回理事会に対処案を答申することとしたい。

【決議内容】新しいルール40の対応案については、次回第7回理事会にて諮る。

【主な意見等】

・2021年以降のJOCマーケティングの基本方針について、メディアに公表するののかとの質問があり、本会として今後のJOCのマーケティングの方向性を示すためにも公表することとしたいとの回答があった。

5 報告事項

(1) 日本オリンピックミュージアムについて

9月14日のグランドオープンに先立ち、12日にオープニングセレモニーを開催する。屋外のモニュメントエリアにて、山下会長より挨拶、来賓紹介、テープカットを行った後、館内にてミュージアムコンセプト、展示内容の紹介後、内覧会を実施する。

(2) 国際総合競技大会関係について

1) 第1回ANOCワールドビーチゲームズ日本代表選手団(選手団名簿及び旗手の選定)

第2回理事会において一任を得た、第1回ANOCワールドビーチゲームズ日本代表選手団が決定した。編成数は、選手25名、監督・コーチ等12名、アディショナルオフィシャル5名の計42名。旗手は野中生萌選手(スポーツライミング)が務める。

2) 第3回ユースオリンピック冬季競技大会(2020/ローザンヌ)各国・地域団長会議概要報告

9月2日から6日の5日間、ローザンヌ/スイスにて、第3回ユースオリンピック冬季競技大会(2020/ローザンヌ)各国・地域団長会議が開催された。新たな取り組みとして、選手団も公共交通機関を利用した移動が計画されている。日本代表選手団の編成数は、今後の出場権獲得状況による変動はあるものの、各競技団体のヒアリングに基づき、選手75名、役員46名の計121名となる見込み。

3) 第32回オリンピック競技大会(2020/東京)各国・地域団長会議概要報告

8月20日から22日までの3日間、ホテルニューオータニにて、第32回オリンピック競技大会(2020/東京)各国・地域団長会議が開催され、東京2020大会組織委員会の各部門による準備状況や計画のプレゼンテーション行われた。

(3) 総務本部関係について

1) オリンピック・ムーブメント専門部会関係について

i JOCパートナー都市

6月11日に北海道士別市と、8月30日に東京都板橋区、北区と新たに3都市とのパートナー都市協定を締結。これによりパートナー都市は29都市となった。

ii オリンピックデーラン東京大会の開催

来る12月21日に、オリンピックデーラン東京大会を開催することとなった。今後参加者の募集を行う。

2) 国際専門部会関係について

去る9月4、5日に、ウラジオストック/ロシアにて東方経済フォーラムが開催され、ロシアNOCが開催したパネルディスカッションに山下会長が参加した。また、ロシアNOCとのパートナーシップ協定の再署名式を行い、スポーツ分野における両国の協力を発信する場となった。

(4) スポーツ団体ガバナンスコード説明会、加盟団体会長会議について

1) スポーツ団体ガバナンスコード説明会開催報告

9月3日にスポーツ庁、JOC、JSPOの共催で、スポーツ団体ガバナンスコード〈中央競技団体向け〉に関する説明会を開催し、本会及びJSPO加盟団体全76団体より110名が出席。説明会では、ガバナンスコード策定を踏まえて各中央競技団体に求めることをテーマとした講演の後、スポーツ庁よりガバナンスコード内容の説明、統括3団体よりNFの適合性審査方法等の検討状況の報告等が行われた。適合性審査の審査方法については、統括3団体にスポーツ庁を交えて検討している。

2) 加盟団体会長会議について

来る11月26日に加盟団体会長会議をJapan Sport Olympic Squareにて開催する。

①オリンピック・ムーブメント推進事業について、②競技力向上事業について、③ガバナンスコードについて、をテーマに実施する計画。

(5) 東京2020オリンピック・パラリンピック関係について

1) テストイベントの状況について

東京2020大会のテストイベントは、オリンピック、パラリンピック合わせて56大会を3つの時期(ウェーブ)に分けて実施する。現在、ウェーブ1として主に屋外競技を中心としたテストイベントを実施しており、既に19大会が終了した。テストイベントでは、競技会場、競技運営、競技の計測やリザルト表示などのテクノロジー、選手・観客導線や暑さ対策等の確認を行っている。テストイベントを通じて課題の洗い出し、改善を進める。

2) NOC団長セミナーについて

8月20日から22日までの3日間、ホテルニューオータニにて、第32回オリンピック競技大会(2020/東京)各国・地域団長会議が開催され、195NOCやIOC関係者が参加した。会議では各NOCより東京の暑さに対する懸念や、日本の組織の柔軟性の欠如などの指摘があり、組織委員会に対し大会に向けた課題が出された。その他会議での質問事項については、10月初旬までに回答をまとめ、フォローアップレポートとしてNOCへ配信する。

(6) その他

本日9月10日に味の素NTCの拡充棟(イースト)の開所記念式典が行われた。従来の建物はウエストとなり、全体としてはハイパフォーマンスセンターと位置づけることとなった。

ガバナンスコードの運用について、随時NFへの情報共有を行っていただきたいとの意見があった。

以上